天台宗・一隅運動

インドの無医療地域支援

医療を受けられない貧困層が多いインドのナグプールに拠点を置き、様々な支援活動をしている天台宗有志の団体・パンニャ・メッタ協会と、岡山市に本部がある多国籍医師団・認定特定非営利活動法人AMDA（アムダ）が共同で行っている白内障手術事業をはじめとする医療支援に、今年度から3カ年計画で天台宗一隅を照らす運動総本部（横山照泰総本部長）が協力を開始した。

総本部が協力する事業は①ナグプール近郊の無医療地域に医療従事者を派遣②白内障患者が多いことから、現地の医師による手術③災害発生による医療救援活動―の3つで、これらの経済的支援を行う。派遣する医療従事者は原則、現地の医師や看護師ら。他国の医療者の場合、帰国した後に再び無医療地域に戻ってしまうためだ。

比叡山延暦寺で修行したサンガラトナ・法天・マナケ住職のインド禅定林（ナグプール）で2月15日、白内障手術事前検査を実施。191人中74人が白内障と診断され、同24・25両日、地元の眼科病院で39人が手術を受けた。

5月12日にはパンニャ・メッタ学園で112人を診察。同16日には要手術と診断された30人中20人が診察を受け、14人が手術を受けるに至った。病苦から解放された人々には喜びが充溢。現在も順次、診療・手術事業が展開されている。

パンニャ・メッタ協会と多国籍医師団アムダを通じて

医療従事者の派遣事業は3カ年計画で、3カ所に3人配置する予定。必要経費は総額54万ルピー（日本円で約110万円）と算定されている。

白内障の手術事業は、1年間で25万円、3年間75万円で試算。災害救助は1年間5回の救援活動を想定して100万円で算出している。

総本部ではこれらの経費を支援するが、単年度ごとに算出。次年度以降の経費は、活動の状況に応じて増減を調整する。